

新城市民病院での一か月研修を振り返って

豊橋市民病院

まずはじめにこの一か月間ご指導ご鞭撻いただいた諸先生方にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。新城での一か月研修は自分が今まで経験してきたものとは全く違う一面が数多くありました。初診外来、診療所研修、訪問看護、訪問リハビリ、助産所研修、介護保険施設研修など豊橋市民病院では経験できないことを数多く学ばせて頂きました。思うことはたくさんありますが今回は特に一般外来、訪問看護、診療所研修について書かせて頂きたいと思います。

一般外来では知識、経験豊富な先生方と診察、問診の重要性をしっかりと教えて頂きました。今までは診察というと救急外来での診察がほとんどであり、そこでは生命にかかわるか、入院が必要かという判断を中心に行い、詳細な問診をしてこなかった思いがあります。しかし問診、診察のみで 70%程度は診断できるとの先生方のご指導は目から鱗でありました。またある日の診察、若年男性の発熱、咳で来られた患者さんとの出来事です。私はその時、レントゲンと採血の必要性を上申しました。しかしそこでの判断はレントゲンのみ。採血は治療方針には影響しない、炎症反応がいくつであってもおそらく帰宅できるとの判断でした。今まで救急の場ではそのまま帰宅とするか、採血とレントゲンをオーダーするかの二択であった私にとってとても貴重な経験でした。そしてこの経験は診療所での診療にもつながるものだと思います。できる検査が限られている状況でその患者さんにとって本当に必要な検査は何なのかを判断し適切に診断することが本当の地域、へき地医療に求められていることだと感じました。

また訪問看護では地域に多い老老介護の実態を研修することができました。ケアマネージャ、職員の方、看護師、医師などが一体となって一人の患者、家族を支えることの重要性を感じました。今まで病院内での医療しか経験しなかったため、社会が人を支える重要性を感じる事が出来ました。しかしその反面今後はそのような家族がより増えていくのは避けられない事実であり、高齢化社会が進んでいく未来によりよい社会体制、医療を提供していくには何が必要かなども考えさせられました。私としてはやはり今後より必要になっていくのは一番身近な家族の支えではないかと思います。老老介護ではなく、二世帯、三世帯が同居もしくは近くに暮らし支えていくことが社会の負担を減らせるのだと思います。その上でわれわれ医療従事者は家族、患者を支えていくより一層の努力が必要であると感じました。

まだまだ書き足りないことばかりですが、本当に濃密な、そして大変貴重な一か月でした。このような有意義な研修の場を提供して下さった新城市民病院の諸先生方、看護師、事務の方、施設のみなさまにこの場を借りてお礼を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。